



# SDGs未来都市あいち

## 「愛知目標」達成に向け先導した 「あいち方式」の発展・確立プロジェクト

2019.5.9 愛知県



# 愛知県の概要

## 産業

**製造品出荷額等**は、1977年以降、**41年連続で日本一**（2017年46兆8千億円）  
全国シェア1位は、10業種（輸送用機械器具、鉄鋼、プラスチック製品等）  
輸出額は、16.3兆円で日本一（2018年）



## 農業

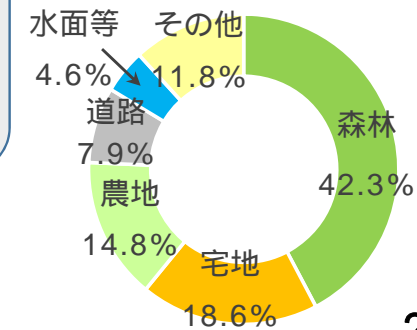
**農業産出額**は、約3千億円で、**全国第7位**（2017年）の全国有数の農業県  
主な産出額等日本一の農産物は、キャベツ、しそ、うずら卵等  
花の生産は、1962年以降、56年連続で日本一



## 地勢

人口は、753万9千人で、近年の良好な経済状況を背景に自然減をカバー。  
国土のほぼ中央に位置し、**大都市圏でありながら、県土の4割を森林が占める。**  
伊勢湾・三河湾に囲まれるなど、豊かな自然環境を有する。

県土の利用状況



様々な主体が連携し、生物多様性の保全の取組を積極的に推進

# 【モデル事業の概要】

世界をリードする日本一の  
産業の革新・創造拠点

## 経済

課題: 持続可能な「世界的モノづくり拠点」の形成

【取組】 (生産活動と環境の「両立」から「融合」へ)

- ・ 環境創造型・地産内需型の製品・サービスの開発・供給
- ・ 生産等事業活動における低炭素化・ゼロエミッション化
- ・ 就業環境の整備による生産性・働き甲斐の向上
- ・ 持続可能な企業経営を支える先進環境人材や域内パートナーの確保



多様性を認め合いながら、  
誰もが活躍できる社会

## 社会

課題: すべての人が輝き、  
活躍する愛知づくり

【取組】

- ・ 高齢者等の社会参加による生きがいと地域・コミュニティ活力の向上
- ・ 社会構造に合致した人材の戦略的な育成・供給
- ・ 県民・NPO等が主体となった地域環境の創造
- ・ 持続可能な社会を体現できる場・機会の整備



三側面をつなぐ統合的取組

「命をつなぐSDGs愛知モデル」の拡大・確立

環境施策のトップランナー  
「環境首都あいち」の実現

## 環境

課題: 「抑制し、守る」環境から、

【取組】 「創り、育てる」環境への転換

- ・ 全県での各地域特性を生かした多様な生態系ネットワーク形成
- ・ 水素・バイオマスなど低炭素エネルギーの創造・活用
- ・ 4Rの徹底による廃棄物抑制と地域循環圏の形成
- ・ 三河湾環境再生プロジェクト
- ・ 環境研究・学習拠点の整備



【三側面をつなぐ統合的取組】(補助対象事業の概要)

## 「命をつなぐSDGs愛知モデル」の拡大・確立

### 1 事業提案の背景・経緯

3つの国際イベントを通して培われたモノづくりの拠点としての高い技術力、この地域の県民・企業・NPO等の高い環境意識は地域の財産となっている。

モノづくり県として、高い技術力を有し、また豊かな自然に恵まれ、日本一のモノづくり県だからこそ、環境分野でもトップランナーとなる「環境首都あいち」を目指している。



2005 EXPO  
2005 AICHI  
JAPAN

「自然の叡智」をテーマとした世界で初めての環境万博



2010 COP10  
AICHI-NAGOYA

生物多様性「愛知目標」を採択  
国際ユース会議in愛知2010 併催



2014 ESD  
AICHI-NAGOYA

「国連ESDの10年」の活動を振り返り、  
2014年以降の方策を議論する世界会議

県民みんなで未来へつなぐ

「環境首都あいち」

生物多様性の保全の先進的な取組

- ・ 県全域での生態系ネットワーク形成
- ・ 国際先進広域自治体連合を設立



「愛知目標」の達成と  
さらなる発展を目指す

# 1 事業提案の背景・経緯

## 「あいち方式」の展開

### (1) 生態系ネットワークの形成

多様な主体の協働により、生きものの生息・生育環境を確保し、つなげていく取組を推進。

### (2) あいちミティゲーション

大規模な開発に伴う自然環境への影響を緩和する取組を推進。

### ユース（大学生等）世代の育成・登用

生態系ネットワーク形成の担い手、かがやけ あいちサステイナ研究所（企業の課題解決に向けたグループ提案）

### 国内外との連携

#### (1) 生物多様性自治体ネットワーク

国内自治体に呼びかけ2011年設立。愛知県が、初代・第4期代表を歴任。（参加自治体数：166）

#### (2) 愛知目標達成に向けた国際先進広域自治体連合

生物多様性保全の分野で先進的な世界の広域自治体に呼びかけ2016年設立。国際会議等で積極的に提言・発信。（構成：6カ国8団体）



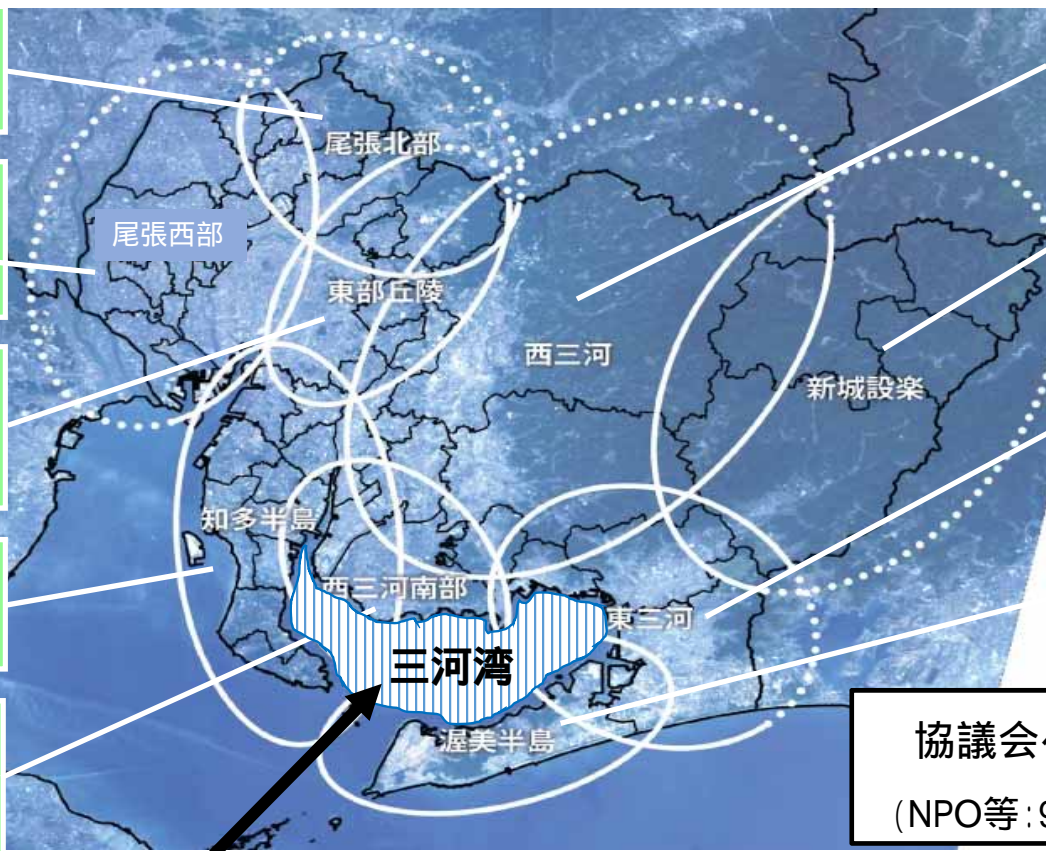
【企業と協働した環境保全活動 ソニーの森(幸田町)】 5

# 1 事業提案の背景・経緯

## あいち方式(1)「生態系ネットワークの形成」の取組状況

県内9地域で、産・学・行政・民が連携した「生態系ネットワーク協議会」を設立し、協議会ごとに地域の特色を生かした取組を展開中。

- 尾張北部(19団体)  
(テーマ)  
「うらやま」の豊かな自然を再発見しよう
- 尾張西部(49団体)  
(テーマ)  
サギやケリの舞う生命(いのち)豊かな濃尾平野をめざして
- 東部丘陵(39団体)  
(テーマ)  
23大学が先導する、ギフチョウやトンボの舞うまちづくり
- 知多半島(37団体)  
(テーマ)  
ごんぎつねと住める知多半島を創ろう
- 西三河南部(27団体)  
(テーマ)  
きらきら光る碧い海～西三河沿岸域が育む生きものたちのつながり～



- 西三河(30団体)  
(テーマ)  
最先端のものづくりと最先端のエコロジーが好循環する暮らしを目指して
- 新城設楽(20団体)  
(テーマ)  
樹を活かす、地域を活かす、森のちからと人の営みが調和する奥三河
- 東三河(25団体)  
(テーマ)  
穂の国いきものがたり子どもたちへ水と緑でつなげよう
- 渥美半島(38団体)  
(テーマ)  
海と大地の恵みを活かし、人と自然を未来につなぐ渥美半島の創造

協議会への参加団体：延べ284団体  
(NPO等:97、企業:69、大学等:49、行政:69)

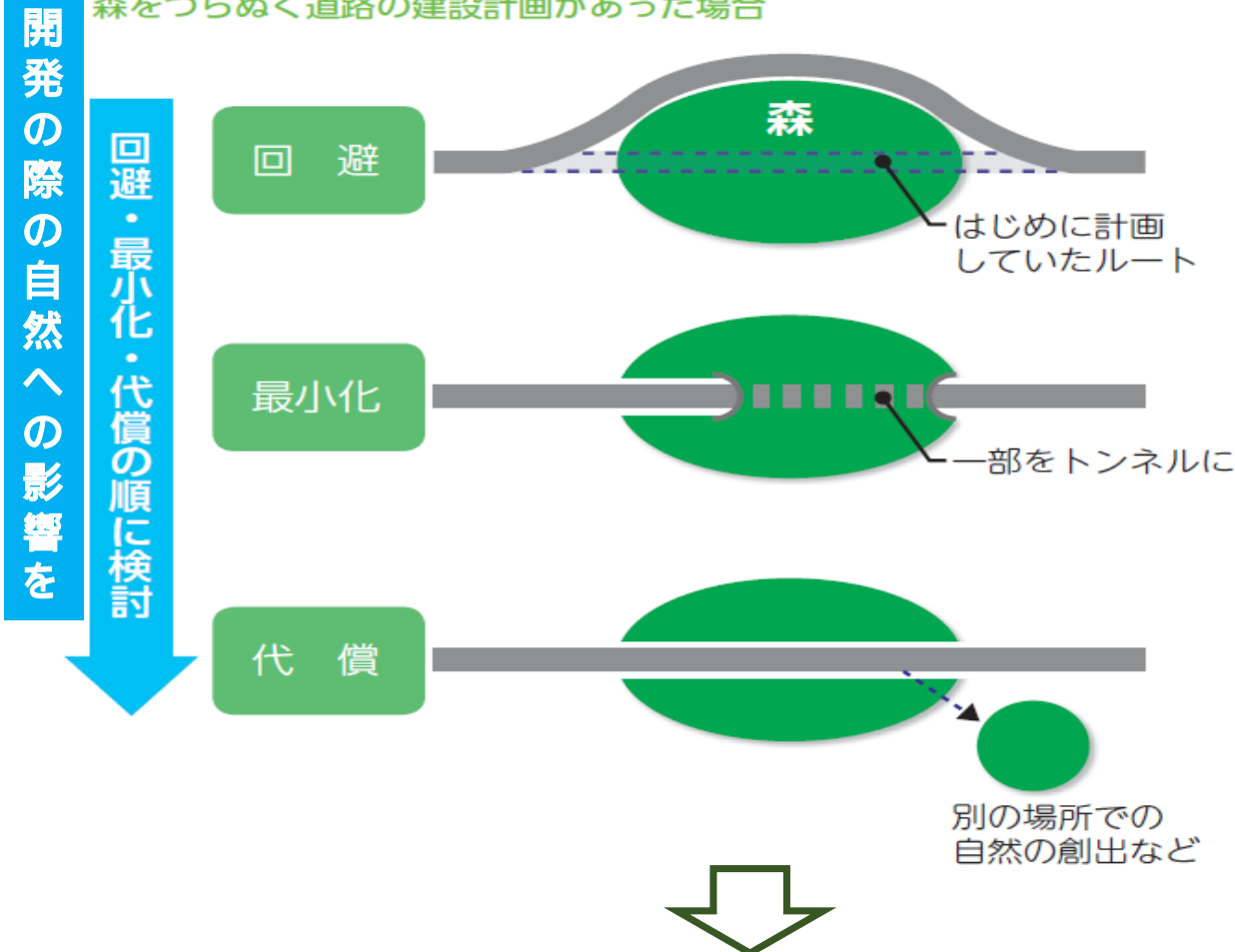
各協議会の活動の他に「三河湾環境再生プロジェクト」など共通テーマのもとに様々な取組を実施  
三河湾環境再生パートナーシップ・クラブ：漁協、水族館等を含む26団体

# 1 事業提案の背景・経緯

## あいち方式(2)「あいちミティゲーション」の取組状況

ミティゲーションの例

森をつらぬく道路の建設計画があった場合



### 推進方法

開発計画(1ha超)に対し、配慮事項のチェック、自然への影響の低減等を指導。

### 実績(2013~2017年)

117のうち91の開発計画で延べ143件の取組が実施された。

### 具体的な実施事例

- ・地域在来種の植栽 87件
- ・環境配慮型の工法 38件
- ・緑地の配置変更 18件

合計 143件



【環境配慮型の工法の例(自然護岸の調整池)】

## 2 あいち方式の推進から生まれた成功事例「命をつなぐPROJECT」

### 取組の概要

- 知多半島臨海部等の企業11社(12事業所)の緑地を舞台に、ユースを核に企業やNPOが連携し、ビオトープやアニマルパスウェイの設置、モニタリング等の生態系保全活動を実施。
- 活動を紹介するフリーペーパー「エコレコあいち」をユースが製作。2011年からこれまでに14回発刊。

### 活動の実績・成果

- ユースが自主的・継続的に参加。常時100人超が活動中。
- 企業、NPO、行政が参加・連携し、ユースを支援。



- 企業間の連携が成立し、ばらばらに管理されていた企業緑地がつながることで、豊かな生態系が創出。
- ホンドキツネ(ごんぎつね)、ニホンノウサギ、ホンダヌキ、ニホンアナグマ等の生息を確認。
- 「人材育成」と「企業価値の向上」、さらに情報発信による「意識啓発」を同時に達成。

第46回「環境賞」審査委員会特別賞受賞！



ユースがつなく！  
企業がつなく！  
生きものの「命」

株式会社豊田自動織機  
大府駅前ビオトープ  
(知多半島内陸部)



【上空から見た企業緑地】



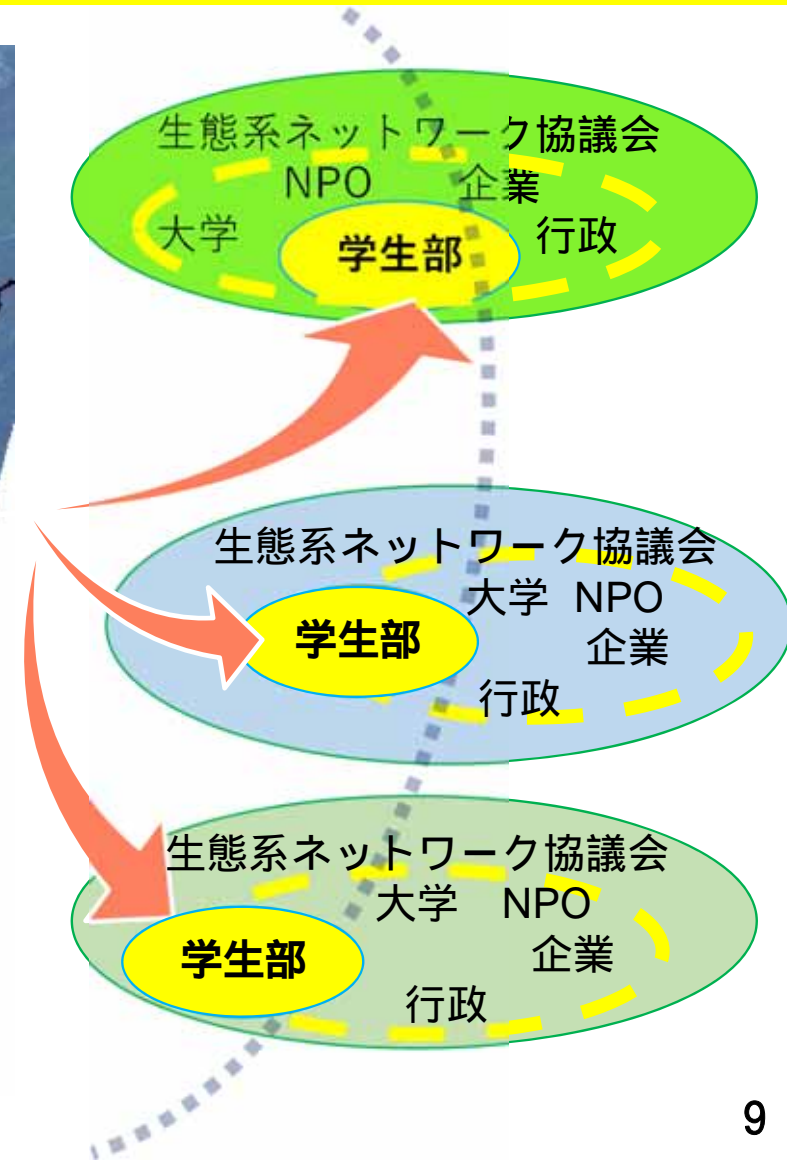
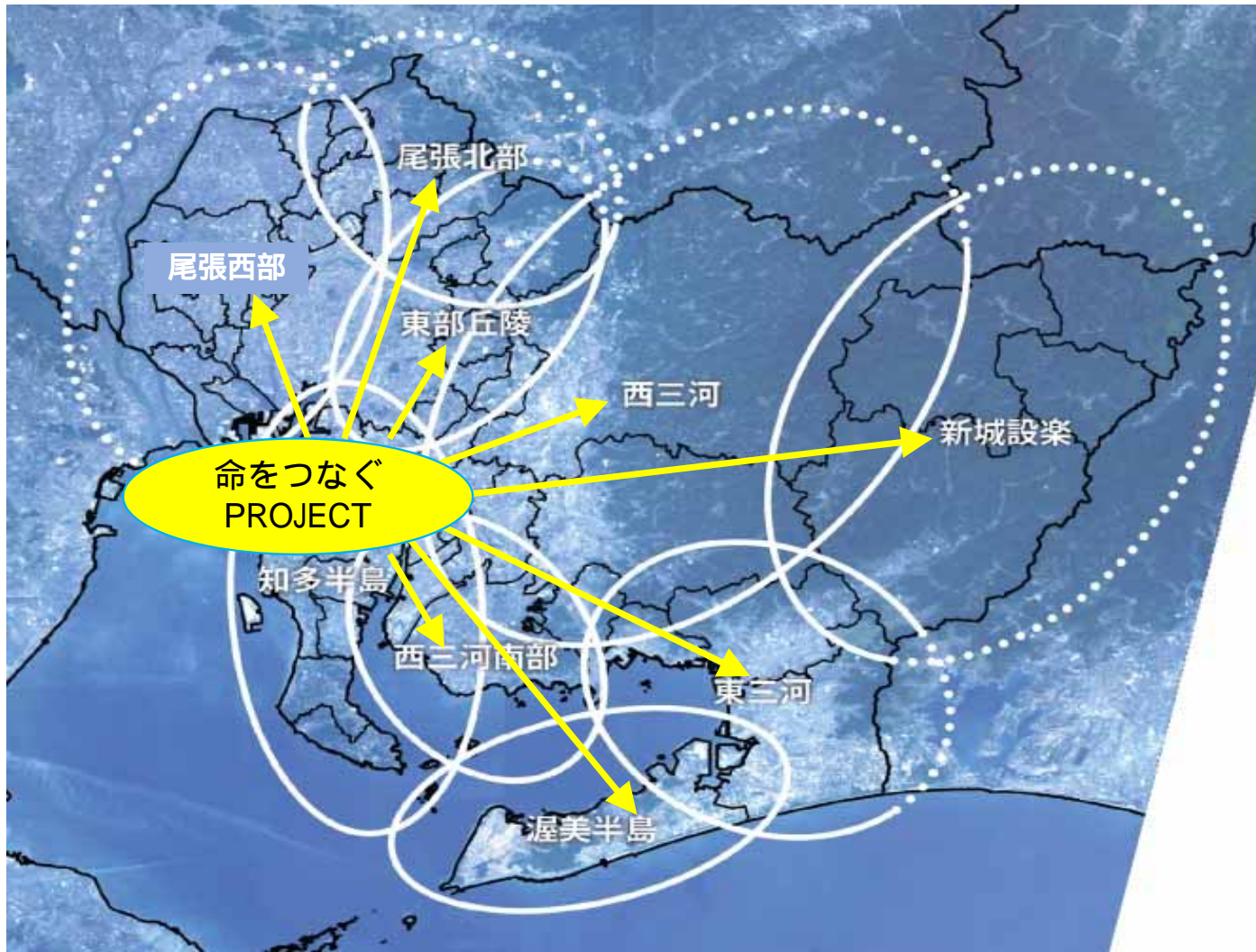
【出光興産の緑地に現れたホンドキツネ】



【エコレコあいち】



### 3 「命をつなぐSDGs愛知モデル」の拡大・確立の具体的取組



### 3 「命をつなぐSDGs愛知モデル」の拡大・確立の具体的取組

～これまでの取組をさらに深化・発展させていくための実施事業～

<連携強化、成果の検証・共有>

<交流・発信の強化>

<補強する取組>

- (2) 生態系創造の担い手 (NPO等) と企業とのマッチングシステムの導入

<成果の可視化と発信>

- (4) 生物多様性せいかりレーの開催とベストプラクティスの選定  
(これまでの取組成果を国内外に発信)

<中核的取組>

- (1) ユースを核とした県民・企業の協働による生態系創造活動の全県拡大  
(生態系ネットワーク協議会に学生部を設置し、主体間・協議会間の連携を強化)

<生物多様性からSDGsへ>

- (5) 「多世代フォーラム」の実施と、2030年に向けた行動計画の検討  
(ユース、ミドル、シニアが交流し、生態系創造からSDGs全体へ視野を拡大)

<PDCAの仕組み>

- (3) 県民参加型の生物多様性モニタリング (生態系ネットワーク形成の取組成果を定期調査により、検証・共有化)

<ユースの国際交流>

- (6) 国際交流活動、2国間のユース人材育成プログラムの展開

補助対象事業(1),(2),(5),(6)

## 4 「命をつなぐSDGs愛知モデル」の拡大・確立に向けたSDGs普及活動

### (1) 次代を担うSDGs人材の先進環境拠点「新・愛知県環境調査センター」での実践的・継続的育成

【施設概要】 県内の大気・水質、生物多様性等の調査・研究を行う施設  
(2019年4月一部供用、2020年4月オープン)

ZEB(ゼロ・エネルギー・ビルディング)施設

【実施内容】 小学生を中心対象としたSDGs普及プログラム講座の実施  
シニア(中高年ecoティーチャー)とユースの多世代連携による運営関与

### (2) 全県民へのSDGsの普及・浸透化 企業等と連携したSDGsのワークショップ開催

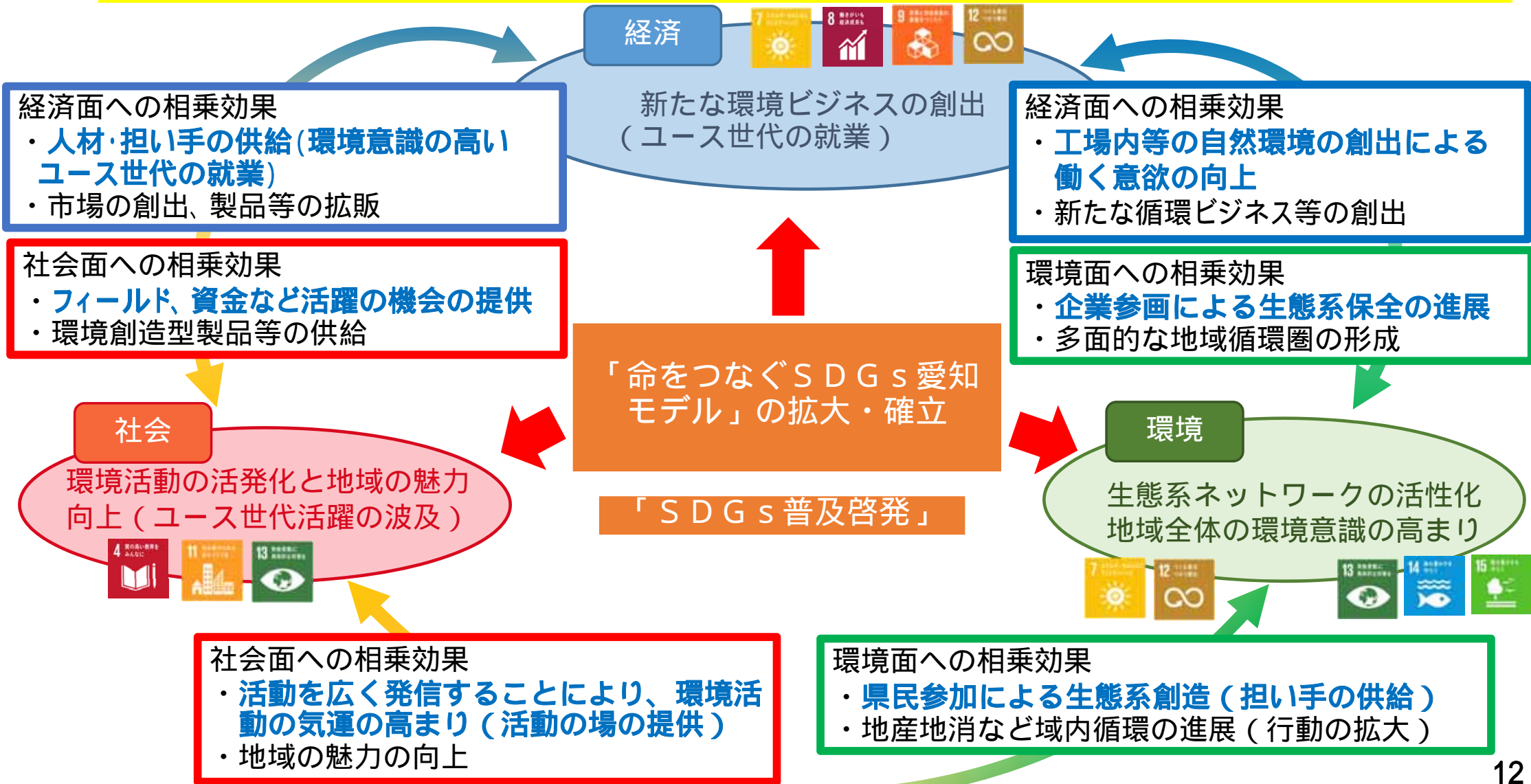
環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)(環境行動に熱意のある企業により2000年2月に設立、会員270社)、中部ESD拠点協議会、愛知学長懇話会、(一社)中部SDGs推進センター など



SDGs県民集結イベント(2020年開催に向け検討)



# 【三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果】



# 【モデル事業の自律的好循環】

ユースを核に、多様な主体がそれぞれの強みを生かして役割分担、協働。  
世代、地域をまたぐ多層的な連携・交流により様々な活動が活性化。

- ・ 県内9地域の「生態系ネットワーク協議会」に設置する学生部が連携し、県内全域で取組が活性化。
- ・ 国内外への情報発信、他自治体との連携・交流により、活動がさらに充実・発展。

## 人材（担い手）の好循環

環境意識の高い  
ユースを育成・  
登用

ユースの実践  
的な活動環境  
が拡大

企業等各主体の  
担い手となり、  
取組が活性化

## 各主体の連携による好循環

ユース

NPO

企業

大学

行政

・ユースを核とした  
県民・企業の協働の  
深化・発展による  
生態系創造活動の  
全県拡大

- ・ NPOと企業のマッチングシステム
- ・ 県民参加の生物多様性モニタリング
- ・ 多世代フォーラム開催 等で連携・交流

## 自然価値（資金）の好循環

企業事業所の自然保  
全を、ユース・NPO  
等と連携して実施

自然保全投資  
の定着化（市  
場の成長）

企業の環境  
価値が向上

社会全体に自然保全  
の風土が拡大

## 地域間連携の好循環

他地域や他自治体との連携・  
交流（さらなる拡大）

先進的取組や失敗事例の共有による  
相互の取組のブラッシュアップ

国内外の自治体

連携・交流

- ・ 生物多様性せいかりレーの開催等による情報発信
- ・ 国際交流活動、2国間のユース人材育成プログラム等

「命をつなぐSDGs愛知モデル」の拡大・確立